

# 生物資源産業学部



生物資源産業学部は令和元年度に完成年度を迎えた。収容学生数は408名である。新しい生物資源産業の創生に貢献できる人材育成を目的とし、必修科目に「アグリビジネス起業論」等を配置し、基礎から応用までの総合的な教育を進めている。また、地域の諸課題を理解し、問題点を見出して解決策を考える必修科目「インターンシップ」を県内の企業等で実施している。

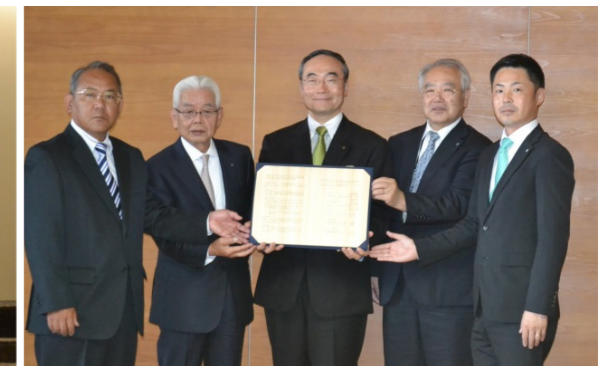
生物資源産業学部は、地域の強い要望により誕生したことから、徳島大学が徳島県や企業等と締結した「徳島県農業の成長産業化及び関連産業の振興に関する協定」、「徳島県林業の成長産業化及び関連産業の振興に関する協定」、「徳島県水産業の成長産業化及び関連産業の振興に関する協定」、「次世代型畜産研究実証事業の実施に関する協定」等の多くの協定に基づき、担当部局として地域と密接に連携した人材育成と教育研究を進めている。教員は、常三島キャンパスを中心に、西は石井キャンパス、北

は鳴門の水圏教育研究センター、南は新野キャンパスに研究室を構えている。応用生命コースは生物資源のヘルスサイエンスへの応用と製品化等に関する教育研究を、食料科学コースは生物資源の機能性から高付加価値食品の創生等に関する教育研究を、そして生物生産システムコースは育種・品種改良、資源の高機能化に関する教育研究を行なっている。これらの過程で、糖尿病や花粉症の治療法を開発するための疾患モデル豚の作成技術、ゲノム編集による品種改良、高度耐久性スギ材の作成技術、海藻の陸上栽培技術、ウシ初乳からサプリメントの開発、藍の粉末色素等の多くの成果をあげている。

本学部の1期生が卒業年度を迎え、より高度な専門知識と技術の習得を目指す学生のため、また社会のニーズに対応して地域創生の原動力となる国際競争力の高い一次産品の開発に貢献できる人材育成のため、大学院修士過程「生物資源学専攻」を2020(令和2)年度に設置予定である。



徳島県農業法人協会と「徳島県農業の振興に関する協定」



徳島県、石井町、みのる産業及びみのるファームとの協定

